

## 令和3年度第1回いしかわ森林環境基金評価委員会の概要

1. 日 時：令和3年7月30日（火） 13:30～15:30
2. 場 所：石川県地場産業振興センター本館1階 第7研修室
3. 出席状況：委員10名
4. 議 題：（1）いしかわ森林環境基金事業の取組実績の検証及び今後の方向性に係る検討について（案）  
（2）いしかわ森林環境基金事業の概要について  
（3）いしかわ森林環境基金事業の第3期（H29～R3）実績（見込み）について

### 5. 委員会議事要旨（委員の主な意見等）

- 【委員】 放置竹林は野生獣の餌場や隠れ場所になることから、今後も整備を継続してほしい。また、緩衝帯の事業についても住民の安全安心のために引き続き進めてほしい。
- 【委員】 クマの生息域が拡大しており、緩衝帯整備をもっと進めることも検討すべきではないか。また、モニタリング調査についても地点数やクマのデータを増やし、効果を県民にアピールするとよいのではないか。
- 【事務局】 放置竹林及び緩衝帯の整備については、引き続き、今後の委員会の中で検討してまいりたい。
- 【委員】 森林環境基金事業については、水源かん養や国土保全の視点に加え、脱炭素の視点からの議論もあってはよいのではないか。
- 【委員】 大変な自然災害等が全国で起きる中、次世代に良い状態で森林を受け継いでいく方向で、森林環境基金の活用を検討していくことが必要。
- 【委員】 森林環境基金が過疎地における雇用創出にどれだけ寄与しているかデータの提示があるとよい。
- 【委員】 県産材を使った住宅の需要が増えてきており、県民へのPRのためにも公共の建築物での木造利用を進めてほしい。
- 【事務局】 県では部局横断的に県産材利用を進めるためのプロジェクトチームを立ち上げており、県の発注する建築物については、可能な限り県産材を活用してまいりたい。また、民間の施設についても、モデル的な取組に対する助成等により県産材利用を進めてまいりたい。
- 【委員】 主に保育園を対象にした木育や木製遊具などは浸透してきているが、そういう教育の機会が小学生となってもつながっていくよう長い見通しで考えていただくとよい。
- 【委員】 県産材の住宅助成等により、県産材の利用量は増えているのか。また、森林整備の担い手の確保について県では何か行っているのか。
- 【事務局】 県産材の利用量は近年横ばいであり、山側からの丸太の供給や製材工場等での製品の供給という部分で課題もあることから、森林環境基金以外の県や国の財源を活用しながら様々な施策を行っているところである。  
人材育成については、県に配分されている国の森林環境譲与税を活用し、市町の森林行政の支援や、新規就労者の確保および林業就労者の技術向上のための研修など担い手育成を実施しているところである。

【委員】森林環境基金による利用促進対策の取組がどういった効果があったかわかる資料があるとよい。